

合併症：かゆみ

Q7 血液透析をしています。かゆみが強いので、いろんなかゆみ止めを試してみましたが効果が得られません。かゆみに効く、いい薬や治療法をご紹介ください。

A7 透析患者さんのかゆみの原因はさまざまです。主な原因と対処法をまとめてみました。

- ①血清カルシウム濃度、リン濃度が上がり過ぎたために、皮下組織内で石灰の結晶が沈着することがあります。この場合、副甲状腺ホルモンが過剰分泌されていることが多いので、副甲状腺摘出術により、皮下の石灰が消失するとともにかゆみは劇的に消失しますが、数か月後には再発することもあります。
- ②皮膚表面の角質層はバリアの役目を果たしますが、透析患者さんは汗が出にくく、角質層内の水分がアトピー患者さんと同じくらい減少しています。また、栄養不良により、老人の乾皮症(乾燥肌)に類似していることもあります。このようなかゆみの治療の中心は塗り薬です。この場合には、皮膚をしっとりさせる作用のある「皮膚保湿剤ウレパール®(尿素製剤)」や「ヒルドイド®(ヘパリン類似物質含有軟膏)」などの保湿剤が第一選択です。皮脂が欠乏している場合には、白色ワセリンが用いられます。これらの塗り薬により、皮膚角層に水分や油分を補うことで潤いを回復させることが期待でき、さらに、角質層機能が保持される

ことにより、かゆみが緩和されます。

- ③透析患者さんの皮膚は薄く、皮膚表面がアルカリ性に傾いているため、皮膚を守る力が低下しています。この場合には、酸性水を使用したり、市販の弱酸性ローション(キュレル®など)による日常のスキンケアが有効です。
- ④透析患者さんは、アレルギーの原因物質であるヒスタミンという物質に対して過敏になっています。この場合には、抗ヒスタミン剤の塗り薬(レスタミン®軟膏、ベナパスタ®など)が有効です。抗ヒスタミン剤には塗り薬のほかに飲み薬や注射薬などがありますが、中には眠くなる副作用が強いものもあります。抗ヒスタミン剤のほかに、眠気が起こりにくい、アレルギー原因物質を抑える飲み薬もあります。

現在開発中の「κ(カッパ)オピオイド作動薬」という新薬(オピオイドとは麻薬のこと)は、麻薬のように痛み止めや鎮静作用はなく、もっぱらかゆみを抑える作用のある飲み薬です。従来薬とは全く異なる作用であるため、今まで効果が得られなかったかゆみに対しても有効性を示す可能性があると期待されています。

(平田純生/熊本大学 薬学部・薬剤師)